



母性看護専門看護師の活動

母性看護専門看護師は、周産期を中心に、様々な職種の人と協働しながら、あらゆるライフステージの女性とそのご家族を対象に、水準の高い看護ケアを効率よく提供できるよう活動しています。

主な役割は、周産期母子援助、女性の健康への援助です。特に、近年は、晩婚化や生殖医療の高度化に伴い、様々なリスクを抱えた妊産褥婦が増えてきており、妊娠前から育児期にいたるあらゆる時期でリスクに応じた関わりが求められています。そのような状況の中で、複雑で解決困難な看護問題に対しても、スタッフが解決できるように相談に応じ、問題解決にむけ共に取り組んでいます。

どのような場所で活動しているのでしょうか？

【所属機関】 地域中核病院・大学病院などの病院、助産院、大学・大学院などの教育機関 など

【配置】 産婦人科病棟、MFICU（母体・胎児集中治療室）、産婦人科外来、NICU（新生児集中治療室）、看護部管理室、リソースナース室 など

*組織の特性に応じてさまざまなポジションで多様な役割を担っています

具体的にはどのような活動をしているのでしょうか？

- ・ 周産期メンタルヘルス（産後うつ病予防の支援、精神疾患合併妊産褥婦への支援、赤ちゃんを亡くした母親・家族への支援、母親アイデンティティ形成のための支援など）、遺伝疾患や胎児異常、合併症妊娠（がん、内科系疾患）や妊娠合併症（妊娠糖尿病、妊娠高血圧症候群など）、育児サポート不足、など心配を抱える妊産褥婦への支援、筋骨格系の痛み（腰骨盤等）やマイナートラブルに対するケア など
- ・ 思春期・更年期女性の健康問題に対する支援、DV（ドメスティックバイオレンス）に対する支援 など



母性看護専門看護師



活動内容

効果的ケアの提供

- ・複雑で解決困難な問題を抱える妊産褥婦への直接ケア、専門外来を活用した継続支援
- ・倫理的ジレンマを抱える妊産褥婦、女性への問題解決のためのケア

医療チームのサポートや教育

- ・問題を抱える妊産褥婦を妊娠中から退院後まで地域と連携し継続支援するためのしくみづくりと、医療スタッフへのコンサルテーション活動、教育活動
- ・助産実践能力習熟段階（クリニカルラダー）[®] / CLoCMiP[®] 研修の企画・運営 / 学習会の企画・運営
- ・健康教室の企画・運営を通し助産師のウィメンズヘルスケア能力向上のため教育、サポート
- ・倫理研修会の企画・運営
- ・看護スタッフの看護研究支援

ケアシステムの構築・調整

- ・CNS による専門看護外来・ウィメンズヘルス外来開設、更年期外来開設、骨盤ケア外来開設
- ・助産外来開設、院内助産システムの構築
- ・産婦健康診査事業のシステム化（産後健診外来の開設、産後うつ病スクリーニングの導入と活用）
- ・多職種連携ケアシステムの変革・構築
- ・他科に入院した母子へのケアに関する基準作成
- ・知見に基づく母子への効果的なケアの導入と実践
- ・院内 DV・虐待防止委員会の立ち上げと活動
- ・助産師出向制度に向けての調整

研究活動

- ・妊娠高血圧症候群や妊娠糖尿病などの妊婦に対しての看護ケア開発 / 長期安静臥床妊婦の筋力低下防止プログラムの開発 / 早産児の母親のケアニーズや母親意識に関する研究 / 家族看護に関する院内研修や他職種連携事例検討会の開催
- 【所属学会：日本母性看護学会、日本生殖看護学会、日本母性衛生学会、日本糖尿病妊娠学会、日本不妊カウンセリング学会、日本看護科学学会、日本助産学会、日本周産期メンタルヘルス学会 など】

社会活動

- ・小中高校生・大学生に対する性教育 / 一般市民対象の健康教育の企画・運営 / 研修会の講師 / 看護系大学・学院等の教育機関で母性看護学・助産学に関する講師、専門看護師養成課程における教育への参画 / 講習会 (CTG セミナー・新生児蘇生法講習会・母体救命公認講習会など) の運営・インストラクター

どのような評価を得ているのですか？

対象者・家族より

- ・関わってもらい体や気持ち became 楽になった
- ・退院後も相談できる場所につないでもらえて安心できた
- ・出産体験を丁寧に聞いてもらえ、わだかまっていた気持ちが整理された
- ・産後も卒乳時期や次の妊娠・出産など、長期にわたって相談できる

他職種より

- ・病院での相談窓口が一つで連携をとりやすい(保健師)
- ・心理・社会的に複雑な問題を抱える妊産褥婦に丁寧に関わってもらえて助かる(医師)

助産師・看護師より

- ・困った時にすぐに相談にのってもらえて助かる
- ・不安や心配が強い妊産褥婦を専門看護外来でフォローしてもらえて安心
- ・対象者の問題解決のためにタイムリーに調整してもらえるので多職種が協働して関わることができる
- ・業務改善に行き詰ってしまった時に介入をしてもらい道が開けた
- ・師長や他部門へのアプローチができずに悩んでいたが、CNSと一緒に入ってもらい心強かった
- ・CNSに関わってもらい自分の看護について「今のやり方で大丈夫」と思えるようになった
- ・CNSが行う勉強会は、新しい知見に富み、活用可能な内容でとても勉強になる、今後もやってほしい
- ・看護研究に取り組む上で、こんなことを聞いていいのかと思うことも相談できる身近な存在

母性看護専門看護師の雇用や活動、事例検討会に関する情報提供や相談を希望される方は、一般社団法人日本専門看護師協議会事務局 (jpncons-jimu@jpncons.org) までご連絡下さい。



Japanese Association of Certified Nurse Specialist

一般社団法人日本専門看護師協議会 <https://jpncons.org/>